

## 闇の中に輝く光① 「光の時間を生きる」ヨハネ 1:1-5

コロナ危機の中、今わたしたちが生きる世界をどんな言葉で表現できるでしょうか。わたしの頭には、まず「混沌」という言葉が浮かんできます。わたしたちの周りには様々な情報があふれていて、いろんな声が聞こえてきますが、何を信賴すれば良いかがよく分かりません。コロナの終息を願う思い以外にはこの世界がまとまらず混沌としているように感じています。また、「闇」という言葉が浮かんできます。これからの先がよく見えなからです。自分自身を守るに精一杯で周りの人もよく見えません。今何をすれば良いか、何を目指せば良いかがよく分からなくなっています。

このような「混沌」と「闇」の中にある世界は聖書にも描かれています。天地創造の前の世界の様子です。「地は混沌であって、闇が深淵の面にあり」(創 1:2)そんな世界に最も必要なことは何でしょうか。「光」です。主は最初に「光あれ」(創 1:3)と言葉をもって光を造られました。そのときから世界は神の御目に良しとされるものになりました。

この話はこの世界が誕生した時の話で終わりません。今から 2 千年前、この地に神の独り子イエス・キリストが降りてこられた時も起こりました。この世界が靈的に混沌と闇の中に陥ってしまったからです。「言(キリスト)の内に命があった。命は人間を照らす光であった。光は暗闇の中で輝いている。」(ヨハネ 1:4-5a)その光によって世界には命と真理と恵みに満ちた神の国が始まったのです。

よく考えてみますと、主の光によって世界が新しく造りかえられる出来事は、天地創造やキリストのご降誕だけではなく、この世界の歴史の中に、また、わたしたちの人生にも繰り返し起きているのではないのでしょうか。様々な試練や苦難の中で混沌と闇の中陥ったとき、主はわたしたちに命の光を照らし、わたしたちを救い、引き上げ、祝福して下さるのです。今日からしばらくわたしたちはヨハネによる福音書を通して、コロナ危機の混沌と闇の中から輝いている主の光に注目してみたいと思います。そして、その光の中を歩む日々を過ごすために主のメッセージを受けていきたいと思います。

## 「暗闇は光を理解しなかった」

今日の聖書の箇所は闇の中で光が輝いているにもかかわらず、闇の中に留まってしまふ理由を一つ教えてくれます。「暗闇は光を理解しなかった」(5 節)ここにある「理解する」という言葉には、自分の所有にするという意味があります。闇は光を自分のものとして受け入れなかったということです。どうして受け入れなかったのでしょうか。違うからです。闇と光は一つになれないし、同時に一緒に存在することもできません。なので、互いに理解することも、受け入れることもできないのです。これは闇と光だけではなく、人間どうしても見られるものです。違いから争いが起こり、もし力の差があれば差別が起こり、互いに排除してしまいます。また、わたしたちの思考の中でも起きます。わたしたちは自分の考え方を基準としてそれと違うものは受け入れようとしなからです。たとえば、ある人は自分の目で確認したものしか受け入れません。ある人は権威ある人の話しか受け入れません。ある人はそのときの自分の気持ちによって受け入れるかどうかを決めます。わたしたちが今から光に注目し、その光を受け入れ、光の中を歩むためには、自分と光の違

いを乗り越える必要があります。自分の考えとは異なる光を受け入れる必要があるのです。

## 創造主なるキリスト

人間を照らす光である命は言の内にあるもので、言の働きによってわたしたちに照らされるものです。ですから、わたしたちがまず注目すべきことは言なのです。言はギリシヤ語でロゴスと言い、イエス・キリストを指し示す言葉です。なぜキリストをロゴスと言ったのかについては次回具体的に分かち合いますが、今日は聖書の箇所にある言の一つの姿に集中してみたいと思います。それはキリストが創造主であることです。ヨハネは1節の最初に「初めに言があった」という言葉でわたしたちを天地創造の時代へ招いてくれます。2節には「この言は、初めに神と共にあった。」と語り、天地創造のときに、言葉は神と共におられたことを強調します。それから、3節に創造主としての言について明確に語ります。「万物は言によって成った。成ったもので、言によらずに成ったものは何一つなかった。」すべての被造物は言によって造られたのです。

だれよりも貧しくて弱い姿でこの世にお生まれになったイエスさま、人々と共に笑い共に涙を流されたイエスさま、世の終わりまでいつもわたしたちと共にいてくださると約束されたイエスさま。実はわたしたちが身近に感じているイエスさまは天地を造られた方だと語られているのです。わたしたちはこの箇所を通してイエスさまについて一つ気づくことがあります。イエスさまは天地創造のときに御父の言として光と命を造られ、この世界に与えてくださいましたが、この地に来られたときには神の内にある永遠の命と神から注がれる霊的な光をこの世界に与えてくださり、いつか完成される神の国を向かって新しい創造を始められたのです。イエス・キリストによってこの世界が始まり、イエス・キリストによっていつかこの世界は完成されるのです。キリストはすべての時間において主なのです。

## 光の中を歩む①：キリストの時間を生きる

創造主なるキリストについて知っている人々をヨハネの手紙は信仰が成熟し、教会全体を支えている教会の群れの父と呼んでいます。「父たちよ、わたしがあなたがたに書いているのは、あなたがたが、初めから存在なさる方を知っているからである。」(一ヨハネ 2:13)なぜそう言えるのか、その真理を知っていることが時間の理解にどのような影響を与えるかを考えてみましょう。

キリスト者の中ではわたしたちに許された生涯の時間の中で一部をキリストを信じる時間として、キリストと共に歩む時間として割いておく場合があります。自分の大切な時間を自分の計画によって使い、あと残った時間の一部をキリストのために使うことです。時間の長さは命の長さです。その大切なもののすべての責任をもって生きることは重荷を背負う大変な人生です。しかし、創造主なるキリストを知り、すべての時間はキリストによるものだと理解できるならば、最初の創造から新しい創造までのすべての時間の中で一部を自分の時間として与えられたと理解できます。キリストが中心で自分の人生がその中に含まれているということです。わたしたちはそのような視点から自分の人生をみて、世界を見ることができれば、わたしたちはどんな暗闇の中でも希望と信仰を失わず、光の中を力強く歩むことができるのです。